

■文武両道を目指す環境

キャンパスの風景



ホッケー環境



生活環境



※グラウンド: 人工芝 専用グラウンド(2006年竣工、夜間照明付き)、トレーニング施設 完備
 ※寮 : 東伏見(西武新宿線東伏見駅下車) 及び 田無(同 田無駅下車)に体育各部の寮があります。



早稲田大学ホッケー部では皆さんの見学、体験練習を歓迎します。
 ご希望の方は、下記までご連絡ください。

■連絡先

- ・早稲田大学ホッケー部 男子部監督 原 聡
 e-mail : hara-sa@hi-ho.ne.jp
- ・早稲田大学ホッケー部 女子部監督 安岡 裕美子
 e-mail : yumikusu_413@yahoo.co.jp
- ・早稲田大学ホッケー部
 〒201-0021 東京都西東京市東伏見3-4-66
- ・早稲田大学ホッケー部 公式ウェブサイト
<http://tomonhockey.com/>
https://twitter.com/waseda_hockey
- ・早稲田大学 ホームページ
<http://www.waseda.jp/top/index-j.html>



早稲田大学ホッケー部 ご紹介



Introduction of Waseda University Hockey Team

■早稲田大学

早稲田大学の前身である東京専門学校は1882(明治15)年、大隈重信によって創設されました。以来、“官学に匹敵する高等教育機関の育成”という理想を現実のものとし、“私学の雄”としての道を着実に歩んできました。社会のために貢献しようという気概を持ち、あらゆる場面で活躍できるグローバルリーダーを育成します。



■ホッケー部

90年を超える歴史をもつ我 早稲田大学ホッケー部は、様々な出身地、高校時代のホッケーキャリアの仲間が集い、個々の個性を尊重し、自主性と規律を重んじて4年間 ホッケーと学業に打ち込みます。我が部は、全日本学生選手権、関東学生リーグの上位常連校であり、これまで幾多の名選手、指導者を輩出しており、“日本ホッケーの雄”と言えるでしょう。

創部100年を目指し、皆さんの活躍で新たな歴史をつくりましょう。チャレンジに期待しています。

■沿革

- ・創部 男子 大正11年(1922年)
 女子 平成 3年(1991年)
- ・栄光の軌跡

全日本選手権	優勝	9回
	準優勝	1回
全日本学生選手権	優勝	1回
	準優勝	4回
関東学生リーグ 春季	優勝	9回
	秋季 優勝	12回

※優勝・準優勝回数は、いずれも男子
全日本選手権は、全早大(2回)を含む

多くのオリンピック選手、指導者を輩出

■活動内容

- ・所在地 東京都西東京市東伏見
- ・グラウンド 夜間照明付き人工芝グラウンド
 (公認人工芝競技場)
- ・部員数 男子 14人、女子 21人(平成29年)
- ・練習時間 授業終了後(授業優先)
- ・所属リーグ 男女とも 関東学生 一部
- ・主要大会とH29戦績

	男子	女子
関東学生リーグ 春季	一部 6位	一部 3位
秋季	一部 5位	一部 4位
全日本大学大座決定戦	不出場	出場
全日本学生選手権	出場	出場
早慶定期戦	優勝	優勝



関東学生秋季リーグに優勝した男子チーム(H25.11.24)



躍進著しい女子チーム

■入試制度

制度	概要	対象学部	試験内容	H30年部員構成	
				男子	女子
アスリート選抜入試	高校時代に優秀な競技実績をお持ちの方を対象にした推薦制度です。	スポーツ科学	選抜＋書類審査・面接	3	1
自己推薦 (AO入試)	ホッケー部においては各学部とも合格実績があります。	社会科学 スポーツ科学	競技成績＋書類選考＋小論文・面接	4	6
センター試験利用	センター試験の成績との組み合わせによる入試制度です。				
・競技歴方式		スポーツ科学	競技成績＋センター試験(英語(必須)＋2科目) ※英語重視です。英語が得意な方に有利な制度です	0	1
・一般方式		スポーツ科学	センター試験(1科目)＋一般入試(英＋1科目(国/数))		
・センターのみ		政治経済、法、商、社会科学、国際教養、人間科学、スポーツ科学	センター試験 学部によって試験科目は異なります		
AO方式		政治経済、国際教養	高校での活動＋書類選考＋論文＋面接		
指定校推薦	学部ごとに決定した指定校から、高等学校長に推薦されたものが入学できます。指定校は毎年見直しが行われるので、各校推薦枠の有無を確認し、推薦枠がある場合にはご検討ください。			0	1
一般				0	3
付属校				7	1

※詳しくは、早稲田大学のホームページ <http://www.waseda.jp/nyusi/undergraduate/system/> にてご確認ください。

※早稲田大学では、高校生、受験生の皆さんに向けたさまざまな情報発信を行っています。

・オープンキャンパス ・進学相談会(全国で開催) ・地域交流フォーラム(全国で開催) など

詳しくは、早稲田大学のホームページ <http://www.waseda.jp/nyusi/undergraduate/system/> にてご確認ください。

■卒業後の主な進路・就職先

多くの卒業生が、各界で活躍しています。

進学) 早稲田大学大学院、法科大学院、防衛大学校

公務員・教職) 経済産業省、飯能市役所、警視庁、中・高等学校教員、駿河台大学、東海学院大学

企業)

金融 日本政策投資銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、南都銀行、三井住友信託銀行、東京三菱UFJ信託銀行、南都銀行、大和証券 他

保険 東京海上日動 他

総合商社 三菱商事、三井物産、住友商事、丸紅、長瀬産業 他

運輸 日本航空、全日空、JR東海、JTB関東

食品 キリン、味の素、味の素ゼネラルフーズ、ニチレイフレッシュ

メーカー 東京ガス、東京電力、東京エレクトロン、富士フィルム、三菱化学、東レ、本田技研工業 他

通信 NTTグループ、ソフトバンク 他

住宅、不動産 三井不動産 他

※上記就職先は卒業後の進路を確約するものではありません。



■監督のメッセージ

男子部監督 原 聡



早稲田大学男子ホッケー部は少ない部員数ながら、子供のころからトップレベルでやってきた、一般受験を経て入学した、附属高校でホッケーを始めたといった等の様々な経験、出身者の集まりです。こうした選手たちが、互いの長所を活かし、弱点はカバーしあう。一人ひとりがチームの中で役割をもち、それを果たす。そうして大学トップを争う力を発揮するチームです。また、文武両道を実践します。ホッケーに真剣に取り組みつつ、学業にも手を抜きません。早稲田大学の学生としてしっかりと学んでいることもホッケーのベースであると考えます。早稲田大学には全国から学生が集います。海外からの留学生も少なくありません。ホッケー部の活動だけでなく、こうした仲間たちとの学生生活は人間形成の貴重な糧となるでしょう。そして、様々な分野でリーダーに育っていくことを期待します。

■現役選手のメッセージ

◆宮口和樹(スポーツ科学部4年・スポーツ推薦入学・伊吹高校)



私が早稲田を志望したのは高校1年生の時です。小学校から続けてきたホッケー競技を大学でも続けたいと考えていました。また、当時から強豪校であった早稲田で活躍される先輩方と共にプレーがしたいともあり進学を決意しました。名門早稲田の一員として日本一に貢献し、自分自身も大きく成長できることを志し入学しました。

早稲田で学んでいることはスポーツの専門知識や人間性です。勉学と部活動の両立で日々忙しい毎日ですが、充実感があります。学業で修得したスポーツの専門知識を部活に活かし、成長できていることを実感しています。また、部活で重要なコミュニケーション能力や自主性等は、今後の社会人活動においても求められる能力であり、主将を務めるなかで更に伸ばしていきたいです。

受験勉強ではスポーツ推薦受験でしたので、面接の練習を日々、繰り返し行っていました。具体的には、様々な質問を想定し、対応できるような準備を進めました。スポーツ推薦受験は面接のみですが、面接練習は手を抜くことなく、人一倍努力しました。

高校生の皆さん。早稲田大学で我々と、学生生活を堪能しましょう。

◆倉田登志矢(一般、スポーツ科学部、4年、静岡県立伊豆中央高校)



私は大学では学業とホッケーとを高いレベルで両立させたいと考えていました。それを叶えるのが「早稲田」でした。そして、高校3年生の秋にホッケー早慶戦を観戦し、スタンドでOB・OGも含めた一体感、勝利を目指す熱い思いに触れ、進学を決意しました。最初の受験では失敗しましたが、「早稲田しかない」という気持ちで、一年間頑張る、チームの一員となりました。早稲田ホッケー部は部員は、少数ながら、強豪校出身者、付属校からの進学。私のような一般受験での入学と様々な者が集まり、お互いに刺激しあいがらチーム作りを行っています。

学業面では、将来携わりたいと考えているスポーツマーケティングを履修しています。多岐にわたる講義の中から自分の夢にあったものを選ぶのも早稲田の魅力です。また、ホッケーだけではなく、各競技に国内トップレベル、ワールドクラスのアスリートがいて、彼らと同じ教室で学び、交流することで、新たな価値観を得て、物事をみる視野も広がったように思います。

受験対策は、過去問題集に徹底的に取り組み、その傾向を読み解くことです。入試に向かって、モチベーションを保つために、入学後にやりたいことを明確にしておくのがよいと思います。

◆齊藤湧大(スポーツ科学部2年・自己推薦入学・今市高校)



私が早稲田大学を志望した動機としては、スポーツ科学に関して日本トップクラスの教育を受けられること、ホッケー部での活動を通じ、自分自身を成長させたいと考えたからです。また、大学で活躍される高校の先輩から紹介を受け、多くの魅力に共感できたことも大きなきっかけです。現在はスポーツ科学部でスポーツ理論に関する教育を受けていますが、将来の進路を考えて教職免許取得に必要な授業も同時に受けています。学部の魅力は自分たちの将来に合わせて8項目の中からコースを選択できることです。また、スポーツに関する知識以外に、幅広い分野での知識を学べなければならないことを入学して知りました。

受験はスポーツ自己推薦受験でしたので面接と小論文でした。受験勉強としては早稲田大学スタッフからいただいた、過去問の論文を作成し、先生からアドバイスをいただきました。アドバイスを受けることを繰り返すことが重要です。更に、高校の先生はもちろんのこと、大学の受験生支援スタッフや先輩方のアドバイスをいただくことで自分の成長度合いを確認できます。

大学に興味のある皆様を大学スタッフや先輩方が全力で支援します。積極的に挑戦してください。皆様方と一緒にプレーできること心待ちしています

女子部監督 安岡 裕美子



早稲田大学女子ホッケー部は、学業と部活動を両立しながら活動しています。選手は様々な学部所属し、高校時代にトップレベルで活躍した者から入学後にホッケーを始める初心者まで多様なバックグラウンドを持っており、個性を尊重し合い、自主的に行動する、独創的なチーム作りをしています。施設も人工芝グラウンドやウエイトルーム等が充実していることに加え、トレーナーなどのスタッフ陣や稲門ホッケー倶楽部(OB/OG会)のバックアップもあり、チームスローガンである「Thinking Hockey」を合言葉にトレーニングに励んでいます。学生生活を通じて、グローバルで伝統のある早稲田大学の学生として、広く世界で活躍する人材を育むことを目指しています。

◆片柳陽加(自己推薦、スポーツ科学部4年、栃木県立今市高校)



スポーツ科学部にはビジネス、医学、教育、コーチング等のコースがあり、スポーツに関連する様々な学問を修得することができます。はっきりとした目標をもつ人、これから夢をさがそうという人、どちらにとっても充実した学生生活を送ることが出来ます。

私が早稲田大学を志望したきっかけは高校1年秋の当時の大学生との練習試合でした。とても雰囲気よく、是非ここでホッケーをやりたいという気持ちになりました。また、尊敬する母校の先輩もいて、同じ試合に出たいという思いもありました。受験にあたり、私は高校での競技歴を活かせる自己推薦を利用しました。受験対策は3年生の秋から始めました。ここが頑張りどころと、小論文と面接の練習を毎日行い、試験日当日にはやっとならという気持ちでわくわくしていたのを覚えています(日々の練習が大事だ！)。

こうして早稲田大学ホッケー部の一員となり、最も感じていることはチームとしての絆です。同じ目標に向け、一人ひとりが一生懸命にプレーしているので、厳しい練習でも、自分も頑張ろうという気持ちで取り組みます。これからもいろいろな高校から新しい仲間を迎えて、一緒に頑張れたらいいなと思っています。

◆有賀瞳(スポーツ科学部2年 センター試験利用+競技歴入部 成城高校)



私が早稲田大学を志望したのは、将来スポーツ関係の仕事に就ける勉強をしつつ、ホッケーを大学でも続けたいと考えたからです。以前からスポーツビジネスやスポーツトレーナー(AT)などに興味を持っており、競技を続けながら好きなことを学べる早稲田大学スポーツ科学部への進学が自分には最適だと考えました。

受験はセンター試験+競技歴を選択しました。私の場合は高校時代大きな大会成績を残すことが出来なかったことで、競技歴に甘えずセンター試験で得点をとることを目標にしました。この方式を選択する方などはどの教科も偏りなく点数を取ることが大事だと思うので、時間配分なども含めて自分の解き方を何度も練習することが重要だと思います。

私が早稲田大学をホッケー部には高い技術力を持つ選手や大学から始める選手など、様々なレベルの選手が在籍しています。私は入部当初、高校とは異なる雰囲気、考え方に圧倒されました。この1年間だけでとても大きく成長できたと思います。早稲田大学ホッケー部のスローガンはThinking Hockeyですが、競技のみならず学生生活においても自分自身で考え、行動することを念頭に活動していきたいと思っています。

◆的場寿音(教育学部2年 自己推薦入学 伊吹高校)



私が早稲田大学の受験を考えたのは中学3年生の時でした。先輩が早稲田大学に進学されたことに憧れを抱きました。将来の目標が決まっていない私にとって、ホッケーと学業が両立でき、卒業後のことを考えられるのは早稲田大学しかないと思いました。早稲田大学ホッケー部は先輩後輩がとても仲が良く、練習のオンオフの切り替えが出来ます。また、自分たちで練習メニューを考え選手が主体となり、チーム作りができるため協調性や判断力の向上につながると思います。

受験は教育学部の自己推薦の試験が面接と小論文ということで、9月頃から小論文を書き始めました。部活もあったため、一日何題も書くことはできませんでしたが最低一題は書いて高校の先生に添削してもらいました。文章を書くのが苦手でしたが繰り返し書くことで構成などもつかめるようになりました。練習はやった分だけ自信につながります。面接は文として暗記するのではなく自分の考えを大まかにまとめ、その場で問われたことに対して焦らず答えることができれば良いと思います。これからの楽しい大学生活を早稲田大学のホッケー部の一員として一緒に頑張りたいです。